

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600226		
法人名	社会福祉法人 歌垣福祉会		
事業所名	グループホームうたがきの里		
所在地	佐賀県杵島郡白石町大字築切264番地1		
自己評価作成日	令和元年10月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和元年10月24日	外部評価確定日	令和元年12月6日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>田園に囲まれ、近くには小学校や保育園があり環境に恵まれ、散歩時には小学生が声をかけてくれたり、散歩中の園児が立ち寄り一緒に歌をうたったりしています。また、利用者様に楽しんでいただけるよう外食・買い物・ドライブや季節行事には工夫を凝らしています。ウッドデッキでの外気浴や散歩による気分転換、レクリエーションや生活リハビリによる身体機能の維持にも努めています。晩秋になると佐賀の名物でもあるバルーンが上空まで飛んで来る事があり、利用者様、職員は歓喜して手を振る光景も見られます。 ホームの菜園で採れた野菜を美味しく頂き、利用者様と一緒に味噌・奈良漬け・酢生姜等にも挑戦し、家族様にも食べて喜んでいただきました。ゆっくりとした雰囲気の中で、笑いの絶えないホームです。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>「安心という信頼をこころがけ」「家庭的な雰囲気とおだやかな暮らしを願って」一人ひとりの思いを受け止め、利用者本位の支援に取り組んでいる事業所である。職員の温かい声かけや「ありがとう」の声がたくさん聞こえてくる。周りの穏やかな田園風景は、利用者がこれまで暮らしてきた環境を思い起こさせ、四季の移り変わりを感じさせる。近くにある保育園や小学校との交流は、利用者の心に喜びをもたらしている。また、地域の方に「協力員」をお願いして、地域とのふれ合いを深めているのはこの事業所ならではの。ドライブ、行事、災害対策などに家族の協力とともに「協力員」の手助けや協力がある。</p> <p>利用者の楽しみの一つである食事は、三食とも事業所の台所で調理された心のこもったものである。職員も利用者と一緒に食卓を囲み、あたかも家庭のような雰囲気のある食事時間である。広いウッドデッキでは、外気浴をしたり、お茶会や食事会にも利用される。散歩途中の園児を見かけてウッドデッキから手を振ったり、園児が立ち寄っての交流が行われる空間でもある。</p> <p>家族からの相談にも親身になって傾聴し、家族も安心して利用しやすい事業所でもある。</p>
---

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に事務所内に掲げているグループホームの基本理念と各棟の介護理念を唱和し実践に繋がっています。	朝礼時には施設基本理念及びユニット内で提案した理念の唱和を行い実践する意識づけを行い実践に繋がっている。	法人の基本理念を基にして、ユニット毎に地域とのつながりも意識した具体的な理念を職員間で検討している。理念は職員が何時も目につくよう大きく掲げている。理念の唱和は、スタッフ間に理念が常に意識され、利用者第一の支援の基になっている。管理者から理念を踏まえての助言も行われている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区のクリーンデイへの参加、小学校や保育園の運動会見学、散歩時や受診時の挨拶を通じて地域との繋がりを深めています。また避難訓練時は地元消防団や地域協力員の参加を得ています。	年2回の地区内クリーンデイに職員参加と夜間避難訓練で地元消防団及び協力員等の参加をお願いしている。日常的ではないものの地区運動会見学、地蔵様への散歩途中や隣接医院受診時に地域の方への挨拶を行うことで顔なじみとなり話す機会がある。	地区の自治会にも加入している。近所の方や地域協力員との話や回覧板等を通して地域の情報を得ている。地域の清掃作業には職員も地区民と一緒に汗を流したり、地区運動会や祭りにも参加し、地域とのつながりを深める機会にもなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練時に地元消防団に支援の方法を伝える程度で、認知症の人の理解や支援の方法を、地域の方に向けて活かしていません。	地域と交流が密ではない為、施設見学時に困り事があれば話を伺う程度であるが以前、地域の方より福祉車両に関する相談を受け助言することがあった。また、当施設を理解してもらう為に地区老人会長や民生員の方へ運動会や敬老会参加依頼を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では施設の状況・活動報告を行い、委員の方の意見や提案等を職員会議で職員に報告し検討しながらサービス向上に活かすようしています。	施設の現況報告を行い施設が置かれている状況を伝えることができている。地域交流を盛んにする糸口としてサロンや体操に参加してとの意見を頂いたり介護支援の疑問、助言を頂きサービス向上に繋がっている。	年に6回の開催である。会議では事業所からの報告と共に、運営推進委員から意見や質問、提案、要望などが出され、有意義な会議となっている。地域の情報、運動会や敬老会へのお誘い、地域と一体になった非常災害時の対策、夜間の避難訓練への質問、ヒヤリハットの基準、インフルエンザ流行時の外来者対策など、話題も多い。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に運営推進委員会の参加を依頼し、日頃の施設の実情や取り組みを理解してもらい、市町村担当者より制度や町内高齢者の状況等の報告を頂いています。	運営推進委員会には担当者の参加があり制度(特に助成金)や防災に関する意見をいただいている。また、今期より2カ月ごとの介護相談員の訪問があり利用者の思いを知る機会となっている。	運営内容や諸課題等について行政と共有し、より良い運営につなげようとしている。運営推進会議で行政と現状や課題等を共有するだけでなく、管理者が行政の担当課に直接出向いたり、電話で連絡を取り合う事も多い。法令改正に伴う具体的な内容、生活保護に関すること、ハザードマップの確認、入居希望者の情報、職員募集に関する事など、用件も多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会への参加や職員会議での報告・意見交換を行い、玄関の施錠はもとより職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	研修会参加者からの報告や隔月に身体拘束廃止委員会で話し合いを行っている。現状確認と改善の取り組みを行うが安全を考慮し使用する人感センサーやセンサーマットが不快な思いを与えることもあり転倒予防に苦慮することがある。また、人員不足時の徘徊に対して中玄関の施錠をすることがあっている。	計画的な勉強会や会議、外部研修などを通して、具体的に身体拘束の無い支援についての意識が高く、ケアの実践に結び付けている。見守り、付き添い、声かけ等で身体拘束の無い支援に取り組んでいる。	中玄関の施錠は、家族とも十分に話し合った末の苦慮の使用である。極めて短時間で、限られた期間の、職員が手薄になる時間帯の使用である。温かい眼差しの支援のもと、利用者の心的な落ち着きを待って、出来るだけ早い機会の中玄関の施錠無しの支援を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を定期的に行い、施設内での虐待が行われていないか注意を払い防止に努めています。	研修に参加した職員からの報告や身体拘束廃止委員会報告から職員会議時に学ぶ機会を設けているがスピーチロック等に反省する点があり研修の機会を増やし意識付けをしていきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様のなかに安心サポート利用の方や生活保護受給者の方がおられるので、本人様と関係機関との話し合いの支援を行っています。	今期に学ぶ機会はなく以前に研修を振り返るだけはあるが独居老人であった利用者の存在があり勉強の機会を設ける必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定等の際は、十分な説明を行い理解・納得が得られるように努めています。	契約や改定時等の説明を個々に分かり易いよう書面を持って説明し理解と納得を得られるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様には意見箱の設置や面会時にモニタリングを通じて意見・要望を伺い、利用者様の日常の会話や簡単なアンケートを実施した中から得た要望等をサービスに反映させています。	玄関に意見箱を設置しているが現時点での意見はなく、年2回の家族会を設け意見交換を行うが活発な意見がでないのが現状です。利用者へのアンケートや会話の中で、家族様面会時にご意見を頂戴する際は即時解決に向け職員会やケース会議で話し合う場を設けている。	家族の訪問時に何でも話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。家族も職員の笑顔のある対応や相談事に傾聴に努める姿勢に、話しやすい、訪ねやすいと感じている。ご意見箱の設置、家族会の実施、利用者とは話しながらのアンケートなども、その後の運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議のほか、日常業務中においても気づきや意見をその場で出し合える環境であり、運営の反映に努めています。	朝礼時や職員会議、日常業務の合間に職員からの意見を聞くよう心掛けている。間接的に職員に対するアンケートを行い本音の意見がっており反映に努めている。	日常の業務の合間や職員会議、朝礼等で忌憚ない意見が出せる環境で、サービス改善に結び付けている。献立に郷土食を取り入れる、バイキング形式の食事、利用者の席がえ、最近オープンした道の駅の見学、干し柿や漬物づくり、長年懸案だったウッドデッキ床の張り替え、職員の疲労軽減の対策等は意見が反映されたものの一つである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期ごとにチャレンジシートの提出があり目標設定に基づき達成度と評価を行なっています。労務規定により随時、労働環境整備に努めています。	年2回チャレンジシートにより各自の目標設定を行い自己評価に対し評価を行っている。労働環境については労務規定により随時整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の事業計画において職員の資質向上を掲げており、施設内外の研修への参加および資格取得を目標にするなど資質向上に努めています。	事業所としても職員の資質向上は必須であり、資格取得の推進を常に行い内外研修参加の機会を設けている。職務研修や資格取得への特別休暇も制度化している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県老協主催による研修・交流会をはじめとして、グループホームによる地域連絡協議会主催の研修会、白石町主催の医療介護等関係者連絡会議による勉強会等の参加により資質向上に努めています。	町内医療福祉連携研修やグループホーム連携協議会勉強会参加を行い職員間の交流を通じ情報交換しながらサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者様本人や家族様への面談を行い、担当ケアマネより得た基本情報を参考にしながら良好な関係を作り会話に努め、利用者様の話を傾聴し不安軽減に努めています。特に不穏時は出来るだけ寄り添い安心されるよう努めています。	入居前には基本情報を参考にしながらご本人や家族との面会を行い要望や不安事を傾聴し入居に対する不安軽減となるよう関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設見学をして頂き、家族様の思いや要望を聞きとり会話しながら信頼関係が築けるように努めています。	入居申し込み時には施設見学を勧め利用者様の現状や困り事をよく聞き相談を受ける事で信頼関係作りの始まりとし安心してサービス開始となるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様本人、家族様の思いを聞きながら支援方法を見極め、状況に応じて他のサービスの利用も話し合いながら対応に努めています。	担当ケアマネや利用事業所からの情報を基にサービスの継続を視野に入れながらご本人理解に努め現状で必要と思われる支援に繋げている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で洗濯物干しや畳み、調理の準備など出来ることを一緒に取り組むことで良好な関係が築けるように努めています。	介護をされる立場でなく暮らしの中の家事手伝いを職員と行い、時には野菜作りや漬物作り、料理の味付けを教わる事もありながら出来ないことは職員が手助けをしていく良好な関係が出来つつある。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出時には家族様の協力をお願いし、施設行事の参加時、面会時には利用者様の状況報告をして家族様の要望等を伺いながら共に支え合う関係を築けるように努めています。	不穏時や体調不良時等、職員では対応しきれない部分で面会や外出、受診の協力がある。家族様の施設行事参加で利用者様との交流があり面会時にはゆっくり過ごせる環境とアルバムや作品づくりを見ていただきながら近況報告を行う事ができている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	受診時、散歩時、デイサービスで知り合いの方と話しをしたり、親類の集まれる盆・正月の一時帰宅の受け入れのお願いや近所の方の面会の受け入れ等の交流を大切にしています。	重度の方が多くなり家族が集まる盆正月の外出が難しい現状にありますが美容室や係りつけ医への受診やデイサービス訪問で顔見知りの方と会話程度の交流はあり、近所の知人の面会や幼少の頃親しんだ場所に連れ出すことで思い出話を聞くことができている。	出来るだけ、これまでの生活の延長線上である様にと意識した支援である。友だちの訪問もあり継続的な交流も出来ている。また、馴染みだった美容室を利用したり、かつてよく参拝していた水堂さんまで出かけた。郷土料理の須古寿司を一緒に作るなど、これまでの関わりを大切にしたい支援である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの過ごされ方を把握し、利用者様同士が良好な関係で過ごせる席の配置を工夫し、時には職員が入り孤立されないように利用者様同士の関わりが持てる支援に努めています。	利用者同士の関係性に留意しながら日々のレクリエーションを通じて良好な関係作りができる橋渡しを行っている。利用者の中には時に孤立を好まれる方もいる中、他の方を気遣われる場面があり小さな関わりが持てている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時、外でお会いした際には挨拶や近況を伺う程度で相談や支援には至っていません。	退居された方の中には当法人施設への転居があり状態確認を行うことができている。出先で利用者家族に会った時など近況報告や挨拶程度はできている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴を把握し出来るだけ利用者様の思いに沿うように努めているが、困難な場合は職員で検討し利用者様本位の支援が出来るように努めています。	サービス内容には何気ない会話などの声を取り入れご本人の意向に添えるよう努めています。体調面や家族の都合により希望が叶えないことがあります。利用者本位に努めるようにしている。	職員全員が、一人ひとりの心に寄りそい、日々の関わりの中で、会話やつぶやき、言葉にしづらい表情や行動の変化を敏感に捉えて、利用者の真意を把握するように努めている。また、どのように暮らすことが本人にとって最良なのかを、家族と相談することも多い。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の家族様の聞き取りや担当ケアマネジャーから情報把握に努めています。	入居前に家族への聞き取り、ケアマネからの情報提供を職員間で共有し入居時には家族様にバックグラウンド記入を依頼し通常会話の中から暮らしぶりを知ることでこれまでの生活把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの能力、体調に合わせ無理なく過ごせるようケース会議等で話し合い現状把握に努めています。	日常生活での記録を把握し残存機能や体調に合ったサービス提供について毎月のケース会議やモニタリング時に個々の状態について話し合う場を持っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の日頃の状況に気を配り、異変があった場合はその場で検討し、家族様とのモニタリング時の意見や意向等もケース会議に反映させ現状に合うような介護計画の作成を心掛けています。	家族様に面会時やモニタリング時に近況報告を行い意向を伺っている。日々の職員間での意見交換、ケース会議により利用者の思いを押し測りプランに反映している。	利用者がその人らしく暮らし続けるために利用者一人ひとりの視点に立った介護計画である。利用者や家族の意向が反映された実現可能な具体的な計画である。全職員が関わりあった介護計画であり、計画の見直しも柔軟に行われている。担当者会議には、家族も出席している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録等での情報を共有し、話し合いを行い介護計画の見直しに活かしています。	介護記録等により情報共有に努め実践を行い気づきがある時には話し合いのケアの見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、家族様の会話から得た情報や家族様の状態変化に応じて必要な支援やサービスにも、柔軟な対応で取り組んでいます。	日々変わる心身の状態に応じ柔軟な支援と時々のニーズに対応できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運動会への参加、保育園運動会見学、地元での買い物、周辺散歩等を支援しています。中・高校生から葉書やボランティアを受け入れた際には、利用者様にお礼状や雑巾等の作成の楽しみが出来る支援をしています。	近隣のストア等への買い物、地蔵様までの散歩、隣接医院への受診同行、ボランティア受け入れの支援を行っているが、地元へ溶け込む暮らしを模索中である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様個人、または家族様が付き添い、また利用者様の身体状況に応じて訪問診療を受けられています。	入居時に受診は家族付き添いである事を伝え、係りつけ医受診継続の有無の確認を行い近隣医院は職員が付き添い、面会時等に検査結果等の報告をおこなっている。緊急受診、入院時には家族への連絡と付き添いの協力をお願いしている。	入居にあたってこれまでの受診状況を確認し、本人や家族が希望するかかりつけ医や医療機関での受診を支援している。かかりつけ医が事業所のすぐ隣りでもあり、職員が同行、支援することが多い。かかりつけ医による定期的な健康診断や、訪問診療も行われている。眼科、歯科、専門医とも密な関係があり、家族にも安心感をもたらしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調変化の気づきを相談でき、急変時の助言や医療的支援があります。また病院看護師との連絡を取りながら適切な受診に繋がっています。	介護職員の気づきだけでは状態の判断が出来ない時など相談を行い適切に受診有無の判断を行っているところが多い。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報交換や入院中の状態把握に向き病院スタッフとの情報交換、カンファレンスに同席し退院後の対応に役立っています。	入院時の情報提供を行い、入院時は状態確認に向き病院関係者との情報交換を行い、退院時のカンファレンスに参加、退院後の支援に役立てるようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関しては契約時に説明を行い、ホームでの対応困難時は家族様に伝え状態に応じて職員、家族様、主治医を交えて話し合いを行ないます。	入居時に事務所としてできる事の説明を行い同意を得ている。重度化された時には家族への報告を密に行い状態により入院に向け家族、主治医との話し合いを行うようにしている。	利用者と家族の意向を踏まえながら事業所として出来る最大の支援や出来ないことをきちんと伝え家族の納得を得ている。看とり介護は事業所の実情から行っていないが、利用者の健康状況の変化がある毎に、家族や主治医と緊密に連絡、相談を行い、関係者全体の方針が統一されている。	利用者本人、家族と事業所との信頼関係が厚くなる程に、近い将来最期までここで過ごしたいと希望する方が出られることも考えられる。その場合に備えての研修会への参加等を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故の際の対応は出来てはいるが、定期的な応急手当や初期対応の訓練は行なっておらず、訓練の機会を作る必要があります。	マニュアルを作成しているが全ての職員が把握実践できるとはいえず、感染症対応の内部研修参加程度である。AED設置があるものの職員の入れ替わりで使い方に自信がない者もあり定期的な勉強会が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアル作成、災害想定避難訓練の経路確認、備蓄品確保が出来ています。消防署、地元消防団との合同夜間避難訓練、隔月実施の避難訓練の度に誘導手段の再検討を行なっています。	年数回ホーム独自の避難訓練と年2回防災訓練を行い夜間合同避難訓練に於いては地元消防団、協力員の参加のもと職員は全員参加とし避難経路や通報、消火器の扱い方が把握できている。先の水害時には実際に体験したことで対応すべき事の把握となった。	消防計画に基づいての年に2回の夜間想定災害想定避難訓練と別に事業所独自の避難訓練を定期的に行っている。消防署、地元消防団、近隣住民、協力員も参加しての避難訓練である。各居室には、避難済みの確認が確実にできる工夫もある。8月の水害時には、地域、行政と一体になったの情報収集、早めの避難、非常食の利用、職員体制の確保など、勉強になることも多かった。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しプライバシーを損ねない言葉かけや利用者様のペースに合わせた声かけを行なっているつもりだが、気配りに欠ける声かけや対応が見られることもあり、反省点もあります。	理念にあるよう敬愛の心で接するよう言葉かけやプライバシーを損ねない配慮に努めている。時として突発的な動きや暴言を受けると感情的な言葉になる事も見受けられるが直ぐに反省する職員の姿勢があり、より良い支援に向かうと思われる。	利用者のその人らしい尊厳ある姿やこれまでの人生から生まれた誇りを大切にしている。馴れ合いになることなく、年長者として敬意を払い尊厳を大事にした言葉づかいを心がけ、トイレ誘導や食事時のさりげない支援、その他、随所に行われている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との関わりの中で思いや希望を聞き出せる声かけや対応を行い自己決定のできる支援に努めています。	着替えの服選び、作品作りやレクリエーション参加など日常生活の中で自己決定ができる機会を作り本人の意思に添う配慮を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望に添った、利用者様のペースに合わせた支援に心掛けていますが職員ペースで対応している部分も見受けられます。	職員の都合を押し付けることもあるが一日の生活の流れで一人の時間を好まれる方、遅くに休んで起きれない方などは本人のペースに合わせ経過していただくようにしているが、集団生活に於いて希望ばかりに添えない事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で整容される方は助言程度で、整容が難しい方には職員が手伝い身だしなみに気を付け支援します。整髪においても訪問散髪を利用される方、家族様と美容室に行かれる方、面会時に家族様に髪をカットしてもらおう方もおられます。	数名ですが家族付き添いで美容室に行きパーマや白髪染めをしたり自分の好む服を着る事や入浴後など化粧水を使用されている方がいる。着衣にアドバイスが必要な方への助言、自分で髭剃りが出来るよう準備や声掛けを行う方、意思決定ができない方に対しては同じ服ばかりにならない配慮をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや、注ぎわけを手伝って頂き、献立の説明、食べやすいような工夫をして楽しみが持てるようにしています。	おかずのつぎ分けや行事食の盛り付けを分担して行ったり調理の下ごしらえや片付けを職員と主に行い食事を一緒に摂りながら会話をする事も楽しみの一つとなっている。	三度の食事ともホームの台所で調理され、その時のまな板の音、香り、調理の様子などは、食事の楽しみを増している。職員も一緒に同じ食事をいただいております、家族的な食事風景を思わせる。自家菜園で育てた野菜や差し入れの果物が食卓にのぼることもある。好みに応じたお茶の熱さやさりげない言葉かけ、利用者が席を立った後に食べこぼしの始末をする等職員の気配りが見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に合わせ食事量や形態を考慮して提供しています。水分も好みの飲み物で水分補給回数が増える工夫をして水分不足にならないように努めています。	水分補給の制限がある方や不足している方に対しては個々に講じた提供を行い咽せが多い方にたいする食事形態や高血圧症の減塩食、糖尿病の方への提供方法の工夫を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きに誘導し含漱や仕上げ磨きの必要な方は介助を行っています。週に2回義歯洗浄も行なっています。	毎食後の口腔ケアの声かけを行い不足分の介助を行うと共に定期的な義歯洗浄を実施しており中には舌苔予防に舌ブラシを促している方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し早めに誘導し利用者様に合った支援を行っています。尿意のない方には定時の誘導や尿路感染になりやすい方には清拭を行なっています。	時間毎の排泄声かけを行う事で汚染回数を減らせるよう努めているが拒否があったりタイミングが合わず汚染が増えている方もいる中、全介助のトイレでの排泄で汚染が減っている結果も出ている。	排泄チェック表の活用や利用者の様子から敏感に尿意を察して、自尊心に配慮してさりげなく言葉をかけ、手を差し伸べてトイレ誘導や排泄パターンに応じた個別の支援である。意に反した排泄の遅れには、羞恥心に十分に配慮した支援である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し水分補給や乳製品、繊維質の多い食事の提供、歩行運動、腹部マッサージ施工など便秘予防に努め、長時間続く場合は主治医への相談を行なっています。	便秘により体調不良や不穏が見られる事理解はしており繊維質や乳製品提供、水分補給、適度な運動を心掛けている。排便記録や本人への確認、医師への相談を行いスムーズな排泄への働きかけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まってお体調や希望を聞きゆっくりと入浴できるように努めています。入浴の時間、湯の温度等も利用者様に合わせ対応しています。	入浴日は職員の都合で決めており希望があれば隣のユニットでの入浴は可能となっているがそこまでの希望は出していない。室温・湯温に気をつけ入浴中は職員との会話を楽しまれゆっくりされる時間となるよう配慮している。	週4日の入浴であるが、希望する方には隣のユニットと併用して毎日でもお湯を楽しむことができる。一人ひとりの気持ちを汲み取っての入浴支援で、入浴中に職員との会話を楽しみにしている利用者もある。また、入浴後の安らぎも大切にしたい支援である。	職員の勤務体制も考慮しての、基本的な入浴日が決められているが、利用者の入浴希望にそって、入浴日、入浴時間帯、入浴時間、入浴順など柔軟な支援である。これまで同様に利用者一人ひとりの生活習慣やその時々希望を大切にしたい入浴支援を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調整、寝具調整を行い安眠できる環境を提供しています。夜間不眠になられる方もおられますが、訴えを理解し入眠される支援をします。	午睡が定着しつつあり快適に休まれるよう温室調整に配慮し部屋では休みたくない方には望まれる場所の提供と関わりを行うようになっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情により使用目的、副作用を把握し、症状の変化には注意して医師へ報告をしています。	医師からの指示や処方方を職員間で周知するよう報連相ノートを利用し情報共有を行い薬の振り分け時には薬剤情報を確認しながらの作業となる。薬の変更時には利用者の体調変化に注意を払い次回受診時等に報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の下ごしらえや注ぎわけ、洗濯物干し、洗濯物干し、洗濯物畳み、掃き掃除等を行うことで役割があることが自信に繋がられています。職員と一緒に饅頭やおはぎ作り、うなぎ・須古寿司、バイキングなど食事の提供、散歩やドライブ、買い物などで気分転換が出来る支援に心掛けています。	女性では家事手伝いに積極的に参加が有り、特に行事食や漬物作りにはそれぞれの意見を出しながら生き生きとされる表情がある。体を動かしたり屋外に出て気分転換をしたりレクリエーションの工夫が出来る。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴、隣接のデイサービスのボランティア見学、ドライブ・買い物等に外出支援を行っています。また家族様へも外出協力をお願いし支援に努めています。	利用者の重度化もあり一緒にできる外気浴や散歩が多くなる中、年数回、法人の車を借り車椅子でもドライブに連れ出せる機会を設けている。利用者の機能低下で活動が限られてくるようになりましたが家族様の協力での外出支援が実現できている方もいる。	「外にも出てみたい」という利用者の希望に応えて、ホームの周りや広い敷地内を散歩したり、買い物や近くの公園まで出かけている。外出は利用者の五感を刺激したり、気分転換にもなっている。玄関先やウッドデッキは外気浴のお気に入りの場所でもある。家族や協力員の協力を受けながらの外出も年中行事として位置づけ、利用者の脳裏に楽しかったという残像が積み重なっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして家族様より預かり、日用品や医療費等の支払に当てています。利用者様より希望があれば職員が同行し買い物に行くこともあります。	少額の現金を持たれている方はいますが盗られ妄想やお礼にと渡される方があり通常はお小遣いとして家族様より預かり担当職員が管理し受診代等の支払を行っている。本人より買い物の希望が出る際には一緒に出かけ小遣いより支払う形をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様、利用者様からの要望があればその都度対応しています。中・高校生のボランティアにお礼の葉書を出される方もいます。	家族等への連絡希望時には電話を取り次ぎ耳の聞こえが悪い方には代弁するようにしている。また、遠方の家族へ手紙を送る提案や年賀状作成の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内には季節を感じる作品や飾りを掲示し雰囲気作りに努めています。室温、BGM、ソファや椅子の配置等にも気を配り、利用者様のくつろげる空間になる工夫をしています。	室内の臭いが気になっており空気の入替えや匂いの元の排除に気を配るようにしている。居室やトイレなど間違われる方には文字を大きく表示し分かり易く、大きなBGMを嫌われる方への配慮や掲示物や花壇の花を飾るなど季節を感じられる配慮ができています。	居間・食堂はテーブルやソファの位置を工夫して、利用者同士や職員と会話を交わしたり、簡単な運動ができるようになっており、昼間はほとんどここで過ごす方が多い。お茶やコーヒーなど好みの飲み物も自由に注文できる。広いウッドデッキは、食事をしたり、自家菜園を眺めたり、散歩中の幼稚園児と手を振るなどの交流の場所にもなっている。両ユニットとも空気の入替えも十分に、調査日に空気のおよみや異臭は全く感じられなかった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が気の合う方と会話できる声かけを行ったり、思い思いに過ごせるように席の移動を行ったりしています。	自室やソファで思い思いに過ごされる方や自分の指定席を決められている方もいる。話しが合う方同士で過ごせるよう座席の配慮を行うことがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や使い慣れた寝具やタンスを持参頂き、利用者様の中には仏壇を持参されている方もおられます。自宅にいるような雰囲気に努めています。	入居前には使い慣れた物の持込をお願いし居室内には家族写真や作品であったり家族様よりの贈り物を置かれたりと殺風景にならない気配りを行い、整頓が出来ない方には環境を整える支援を行っている。	夜具や枕、手鏡、時計、座椅子、その他いろいろと馴染みのものが見受けられた。本人や家族と相談しながらの居室の環境づくりである。家族は、つい、新しい品物を用意がちであるので、利用者が安らぎを得る様な馴染みのものによる居室の環境づくりの理解を得る様に努力している。家族写真もその方の心的状況に合わせた掲示である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口や椅子には名前を書き分かりやすいようにしています。トイレには利用者様に分かるように使い方を掲示しています。	手摺り伝いの歩行可能な方には見守りながら移動ができるよう邪魔になる物に注意を払い認知面低下の方が異食行為や怪我のないよう危険物に目が届かない配慮を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)				
※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○		1. ほぼ全ての利用者の
			○	2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)		○	1. 毎日ある
		○		2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)		○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
		○		3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)		○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	○	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)			1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
		○	○	3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。  (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。  (参考項目:9,10,19)	○		1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
			○	3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。  (参考項目:2,20)			1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
		○	○	3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。  (参考項目:4)	○		1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
			○	3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。  (参考項目:11,12)	○		1. ほぼ全ての職員が
			○	2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○		1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
			○	3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○		1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
			○	3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない